

重要インフラ分野における分野横断的演習(机上演習)の実施について

2007年2月2日
内閣官房情報セキュリティセンター(NISC)

2006年度における机上演習の概要

「重要インフラの情報セキュリティ対策に係る行動計画(2005年12月13日情報セキュリティ政策会議決定)」を踏まえ、我が国におけるIT障害に関する重要インフラ分野での分野横断的な初めての演習として実施。

官民の連絡・連携の仕組みづくりとその実効性の向上を目指し、具体的なシナリオの下に、会議形式で課題討議をする演習(いわゆる「机上演習」)を実施。

1. 日時 2007年2月7日(水) 13:30～17:30

2. 場所 三田共用会議所 第4特別会議室(東京都港区三田2-1-8)

3. 参加者

・政府:内閣官房情報セキュリティセンター、重要インフラ所管省庁(金融庁、総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省)

・重要インフラ分野(10分野)

情報通信、金融、航空、鉄道、電力、ガス、政府・行政サービス、医療、水道、物流

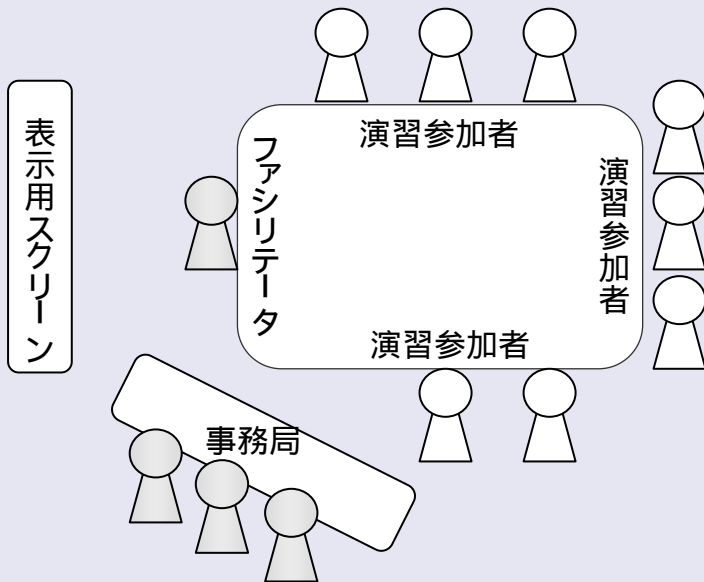
・分野横断的演習関係有識者

4. 演習シナリオ

「首都圏の重要IT関係施設でITサービスの停止等が発生し、決済機能やオンライン・ネットワーク機能の低下等、短時間に複数分野に波及・影響した」という想定で、官民における連絡・連携、情報共有の枠組み等を検証。

机上演習の実施概要

机上演習の配置



机上演習は、参加者全員が会議室で一堂に会する形式で実施する

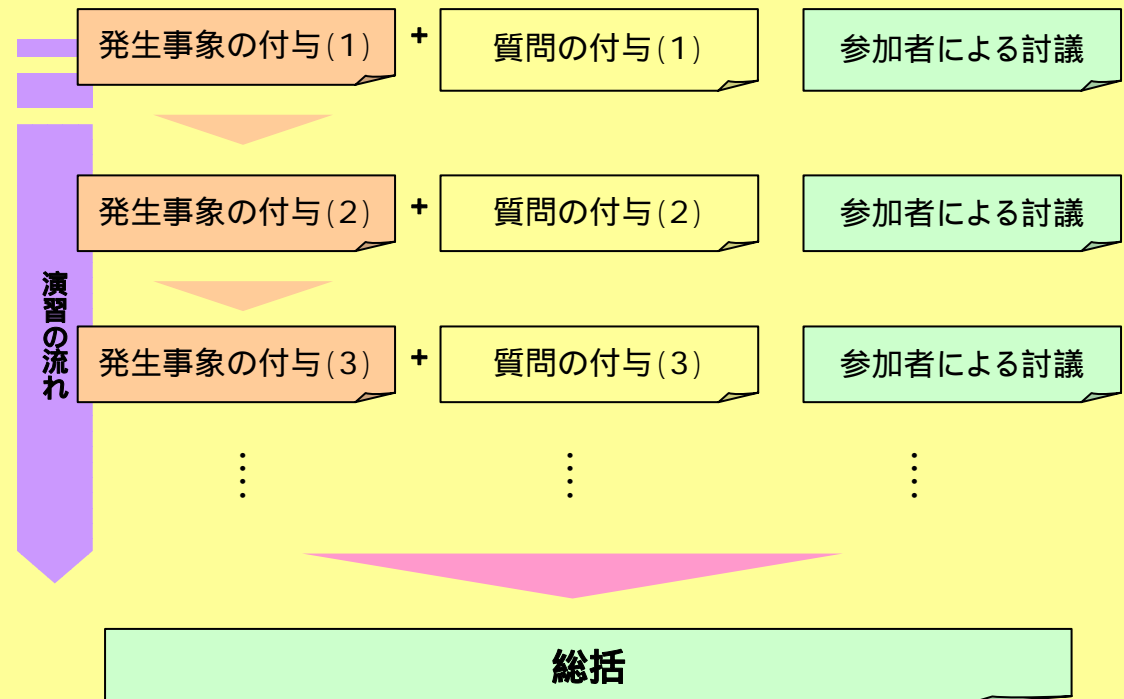


今回の机上演習のねらい

机上演習では、具体的シナリオに基づく討議を通じた課題発見により、以下の点に寄与する。

- IT障害発生時等の分野間及び分野内のコミュニケーションのあり方
- 官民における情報共有・連携のあり方
- 迅速かつ円滑な対策実施のための平時からの対応


机上演習の進行



重要インフラ対策の枠組み ~ 4つの施策の有機的連携による推進 ~

我が国の重要インフラ(10分野: 情報通信、金融、航空、鉄道、電力、ガス、政府・行政サービス、医療、水道、物流)横断的な情報セキュリティ水準の向上を図るための「個別設計図」として、「重要インフラの情報セキュリティ対策に係る行動計画」を策定。

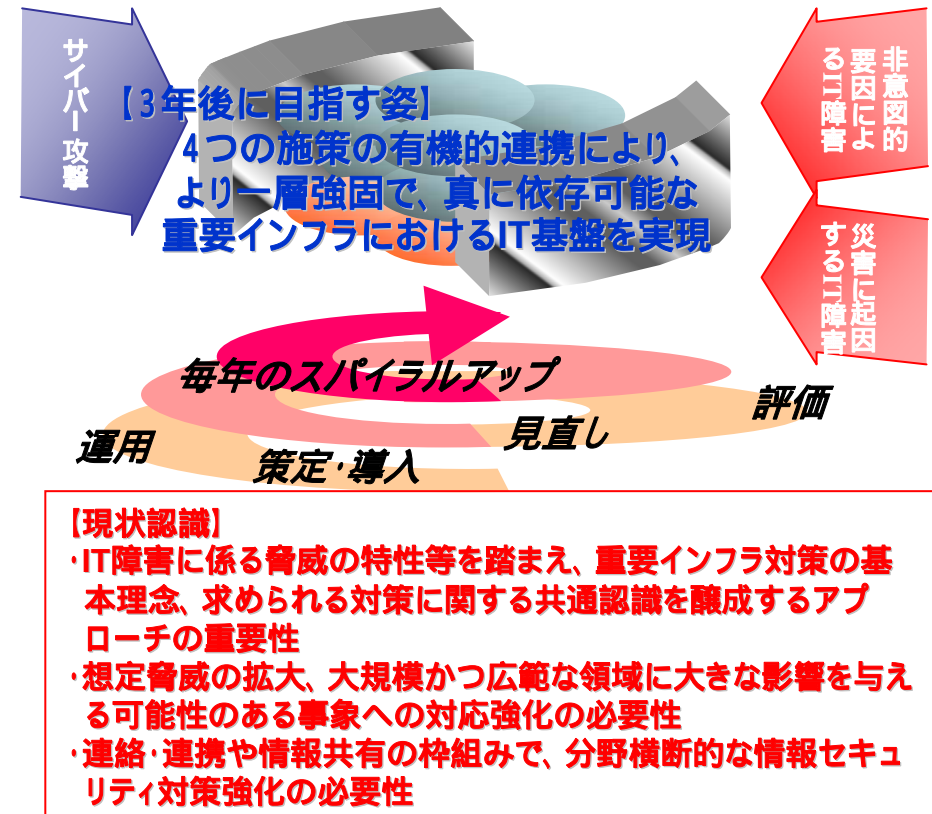
1)サイバー攻撃のみならず 2)非意図的要因、3)災害に起因する、「ITの機能不全が引き起こすサービスの停止や機能の低下等」(IT障害)から重要インフラを防護。官民で緊密に連携をとりつつ、4つの施策の有機的連携により推進。



重要インフラの情報セキュリティ対策に係る行動計画
(2005年12月13日情報セキュリティ政策会議決定)

【4つの柱】

1. 「安全基準等」の整備
2. 情報共有体制の構築
3. 分野横断的演習の実施
4. 相互依存性解析の実施



【目標】 2009年度初めには、重要インフラにおけるIT障害の発生を限りなくゼロに

分野横断的演習の背景と必要性

ITを巡る状況の変化

重要インフラの業務・オペレーションの多様化とIT依存の増加

重要インフラ分野における社会的に影響が大きいIT障害の発生

アウトソーシングなど連携の多様化、自動化・リモートコントロール化・ブラックボックス化などのシステムの多様化・複雑化

IT技術・運用方法の多様化やビジネス環境の変化等により、基本設計時と現在の潜在リスクとの乖離の可能性

ネットワーク型オペレーション(電子ネットワークや重要インフラ間サプライ・チェーン)進行等による脆弱性連鎖の可能性

IT技術の発展に伴う複合的な脆弱性増加の可能性

IT障害の特徴等

地域あるいは分野を超えた連鎖的・広範囲な障害波及の可能性増大の中、障害発生のメカニズムや分野間での接続関係が未解明。

データの高速・リアルタイム処理の進展により、被害の波及スピードが高速化し、被害規模が短時間に拡大する可能性。

事案発生の初動段階で原因究明が困難。かつ、時間を要することが多い。

コンピュータウイルスやDoS攻撃など、攻撃が低コストかつ容易化。

IT技術の発展など状況は常に変化しており、想定外の事態発生等の可能性。

実効性の高い対策を講じていくためには、重要インフラ事業者等におけるサービスの維持・復旧が、より容易になるよう、官民の関係主体が協力することが重要。

IT障害を想定し、分野横断的演習の実施による組織間連絡・連携の検証等を通じ、情報セキュリティ対策の強化を図ることが必要。